

## 観賞温室第2室 企画展示

- 1月4日(月)～2月28日(日)  
「にいがたの花 アザレア展」
- 3月2日(水)～4月3日(日)  
「にいがたの花 チューリップ展」

## 観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月4日(月)～2月7日(日)  
「都市緑花センター設立25周年の記念展示」  
出展：(公財)新潟県都市緑花センター
- 2月9日(火)～2月21日(日)  
「友の会写真展と冬芽展示」  
出展：新潟県立植物園友の会
- 2月23日(火)～3月6日(日)  
「雪割草展」  
協力：岩淵公一
- 3月8日(火)～3月27日(日)  
「外山康雄水彩画展」  
出展：南魚沼市 野の花館 外山康雄

## 観賞温室第3室 2階展示

- 2月9日(火)～2月14日(日)  
「クリスマスローズ展」  
協力：新潟県花き出荷組合 クリスマスローズ部会・日本園芸研究会
- 2月20日(土)～2月28日(日)  
「洋ラン展」  
出展：越後洋らん倶楽部・新潟らんの集い

## イベント

● 3月19日(土)、20日(日) ● ウエルカム・フェスタ ～一足早い花いっぱいの植物園で楽しもう!

熱帯植物ドームを探検してみよう!  
花いっぱいの企画展示「チューリップ展」会場で記念撮影をしよう!

- 県の花「チューリップ」に関連した各種体験教室
- 移動販売車による飲食ブース
- 2日間温室入館無料デー／どなたでも温室入館料が無料になります。

## ● 観賞温室利用案内

開館／9:30～16:30(入館締切16:00)  
入館料／大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)  
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

## ● 観賞温室開館カレンダー(休館日)

1 January							2 February							3 March						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2	・	1	2	3	4	5	6	・	・	1	2	3	4	5
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11	12
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18	19
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25	26
24	25	26	27	28	29	30	28	29	・	・	・	・	・	27	28	29	30	31	・	・

## ● 交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路／磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分  
一般道路／(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分  
J R / 信越線古津駅から徒歩約25分  
バス／区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分  
新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分

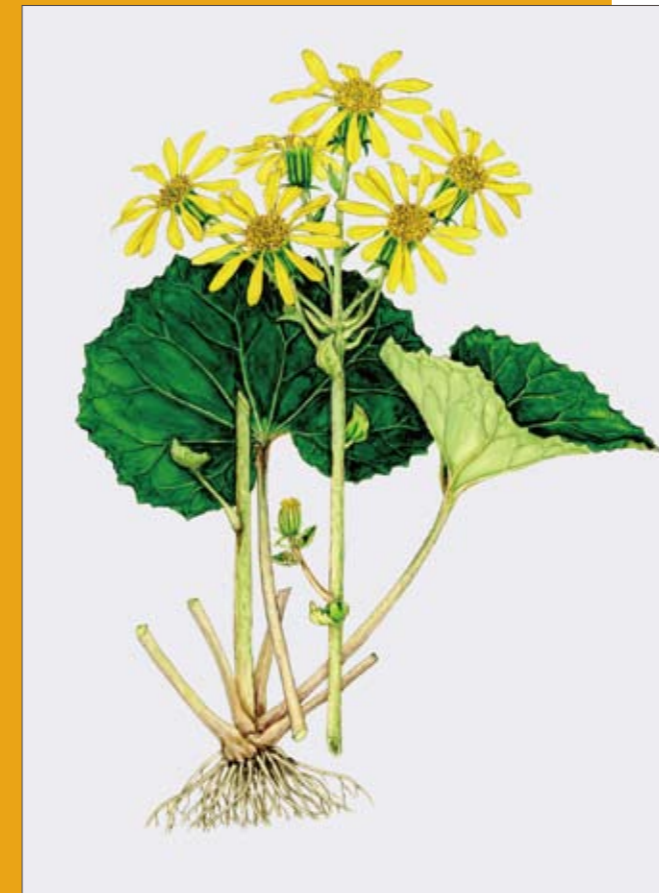
## 花と緑の教室

※会場(または集合場所)「花と緑の情報センター2階 研修室」  
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 1月13日(水) 13:30～15:00  
「植物園花散歩⑨ アザレア」  
定員:15名／参加費:500円(温室入館料込み)  
講師:林 寛子(当園職員)
- 1月31日(日) 10:00～11:30  
「自然素材を使った節分飾りをつくろう!」  
定員:16名／参加費:300円  
講師:新潟県立植物園植物園友の会
- 2月10日(水) 13:30～15:00  
「植物園花散歩⑩ クリスマスローズと冬の花」  
定員:15名／参加費:500円(温室入館料込み)  
講師:久原泰雅(当園職員)
- 2月14日(日) 13:30～15:00  
植物学講座「ユキツバキとヤブツバキ」  
定員:30名／参加費:300円  
講師:石澤進(元新潟大学理学部教授)
- 3月5日(土) 13:30～15:00  
「自然素材でつくるフォトフレーム」  
定員:16名／参加費:300円  
講師:新潟県立植物園友の会
- 3月9日(水) 13:30～15:00  
「植物園花散歩⑪ チューリップ」  
定員:15名／参加費:500円(温室入館料込み)  
講師:村田亜希子(当園職員)
- 3月13日(日) 13:30～15:00  
植物学講座「キク科とはどんな植物か?」  
定員:30名／参加費:300円  
講師:森田竜義(新潟大学名誉教授)

新潟県立植物園

# 植物園だより



## ツワブキ

*Farfugium japonicum*

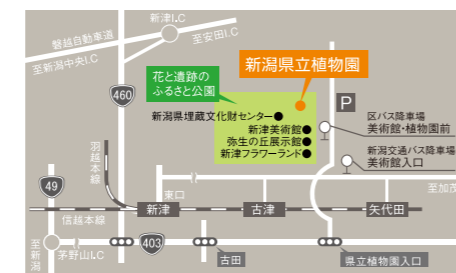
〈キク科〉

海岸の岩上や崖などに生える在来のキク科宿根草。自生は太平洋岸で福島県以南、日本海側では石川県以南だが、園芸品種も多く県内の公園や個人宅の庭でも見かける。他の花が少ない10月～12月に開花するため重宝されるのだろう。花の無い間はどこにあるか分からないが、冬枯れの季節に鮮やかな黄色の花が咲かせ、ここにいるよと主張する。

名の由来は、光沢のある葉のフキ(艶蔞)から来ているが、一般には石蔞と書くことが多い。

(田中良明)

ツワブキ 富樫信平画 三浦半島産 S55.10.22



## 新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp  
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/  
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



植物油インキで印刷しています

Volume 62  
2015 winter



昭和に人気の高かったアザレアの品種、'エリ'



アザレア 'マドンナ'



アザレア 'エルザ・ワイズ'



アザレア 'ケイシャ'



観賞温室 第2室企画展示 & 観賞温室第3室特別展示

# 冬こそ花いっぱい の植物園へ!

## ウェルカムフェスタ 3月19日(土)・20日(日)

日頃のご愛顧に感謝して、一足早い春を感じていただける「ウェルカムフェスタ」を開催します。

チューリップ関連の体験教室や、温室内を楽しくまわれるイベントを行うほか、両日ともに温室の入館が無料となります。

花いっぱいの植物園にぜひお越しください。

詳しくは裏表紙をご覧ください。



新潟県オリジナル品種 '恋心'



## にいがたの花

新潟県が日本一の生産量を誇るアザレアとチューリップを中心とした春の花の競演。冬景色と対照的に、明るく色鮮やかな展示でお迎えます。

## アザレア展

平成28年  
1|4(月) - 2|28(日)

アザレアの花をご存知でしょうか。江戸時代に日本やアジア原産のツツジのなかまがヨーロッパへわたり、改良された観賞用の鉢花です。枝先いっぱいにつけるさまが見事であり、花の少ない冬に咲かせられることも人気の理由です。

新潟県は、全国シェアのおよそ90%を生産するアザレアの名産地です。栽培の歴史も明治時代からと古く、当園の所在地である新潟市秋葉区を中心として発展してきました。

このような背景から、当園では、新潟県らしいコレクションとしてアザレアの収集を進め、現在200品種1000株を栽培しています。

本展では、日本一を誇るこのアザレアコレクションを2か月にわたって公開します。花形の多様さと豪華な花のすばらしさにご注目ください。

1年のはじまりを彩る華やかな展示をどうぞお見逃しなく。



## チューリップ展

平成28年  
3|2(水) - 4|3(日)

切花生産量日本一、球根生産量第2位を誇る新潟県の「県の花」チューリップ。

まだほとんど見ることのできない新潟県が作り出した新しい品種を含む26品種20,000本(期間中総数)のチューリップをつかった、花の愛らしさ、多彩さを感じられる春らしい華やかな展示を行います。

また、一大産地になるまでの歴史、花の秘密などをストーリー仕立てで紹介していきますので子ども大人もチューリップについて楽しく学べます。

一足早くチューリップに出会える展示にぜひお越しください。



春の花、続々登場!  
観賞温室第3室特別展示

## クリスマスローズ展

平成28年2月9日(火)~14日(日)  
会場:観賞温室第3室2階  
協力:新潟県花き出荷組合クリスマスローズ部会  
日本園芸研究会

新潟での生産、品種改良がさかんで、早春に清楚な花を咲かせる姿でファンも多いクリスマスローズ。新潟でも庭植えや鉢植えで簡単に栽培することができます。

今回の展示では、地域を代表する生産者に全面的な協力をいただき、一押しの変配種の展示、自生地風の植えこみで新潟のクリスマスローズの魅力をお伝えします。うつつむいて咲く可憐な姿、多彩な花形と花色をご堪能ください。

## 洋ラン展

平成28年2月20日(土)~28日(日)  
会場:観賞温室第3室2階  
協力:越後洋らん倶楽部・新潟らんの集い

毎年大変好評をいただいている「洋ラン展」。今年も、県内愛好団体のみなさんが丹精こめて咲かせた豪華で華やか、珍しい種類の洋ランが勢ぞろい!不思議で美しい?ランの花の数々を間近でじっくりとお楽しみいただけます。

## 雪割草展

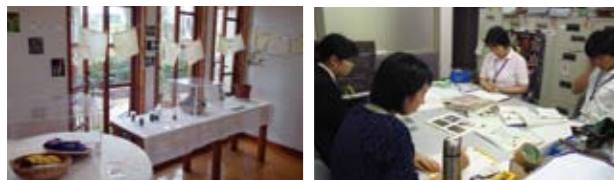
平成28年2月23日(火)~3月6日(日)  
会場:観賞温室第3室1階

新潟県の草花(平成20年指定)、雪割草の展示は、育種家で雪割草の第一人者である岩淵公一さんの協力による、多彩な雪割草に出会える展示です。

花色や花形の変異が多いことで知られる新潟県では、限られた自生地の保全活動も行われる一方、品種改良もさかんで数多くの名花が生み出されてきました。自然と園芸をテーマとして、新潟県ならではの展示を企画しました。

\*当園も指定に関する検討に協力しました





博物館実習



職場体験



各種プログラム

インターンシップ



## NEWS 1 植物園の教育支援活動

### ●博物館実習、インターンシップ

学芸員資格取得をめざす大学生等を対象とした博物館実習、高校生や大学生のインターンシップ実習を行っています。

博物館実習では、「見せる」ことを意識した内容を重視し、第3室住宅内作品展示コーナーの企画・展示を中心に実習を行っています。

インターンシップでは、植物や自然科学を学ぶ生徒・学生に、植物園の管理、運営に関わるさまざまな業務を体験していただきます。また、植物管理だけでなく、広報や展示解説、イベントの企画などもお手伝いいただいています。

### ●職場体験

近隣の中学校の職場体験を受け入れています。

植物管理を中心に、温室での受付業務など、植物園の幅広い業務を知っていただける内容としています。特に植物の管理では、その作業の必要性を説明し、植物園を体験先に選んでくれた生徒さんに植物への興味をより深めてもらえるように工夫しています。

### ●各種プログラム

楽しみながら温室の植物を学ぶクイズやワークシート、植物素材をつかった工作など、校外学習をより充実したものにするためのプログラムをご用意しています。

(林 寛子)

※各実習には事前の打ち合わせ、申し込みが必要です。詳細は植物園企画課へお問い合わせください。



日本では対馬にのみ自生する絶滅危惧種の  
チョウセンヤマツツジ(韓国済州島にて撮影)



シヤクナゲに最も近縁であることが明らかになったレンゲ  
ツツジ(左)、新潟県に自生するガクウラボヨウラクもヨ  
ラクツツジ属からツツジ属に編入され、*Rhododendron*  
*multiflorum* var. *longicalyx*の学名に変更された(右)

## NEWS 3 平凡社から改訂新版 「日本の野生植物」が刊行されます

植物は、これまで形態や染色体など、目に見える特徴で分類されてきましたが、1990年代からはDNAの塩基配列などを解析する分子系統学が発展しました。これらの情報をもとに、新しい被子植物の系統分類体系として、APG(Angiosperm Phylogeny Group)が提唱されています。カエデ科の植物はムクロジ科の1系統であることが判明し、カエデ科がなくなってしまうなど、戸惑いを受ける部分もありますが、植物分類のスタンダードとして世界的に受け入れられており、植物園でも徐々にこの分類体系に準じて植物の分類や学名の表記などがされるようになっていきます。

約30年前に出版された「日本の野生植物」は、日本産のほぼすべての植物を網羅し、検索表や分類群の特徴が解説された植物図鑑として広く利用されてきましたが、この度、新しい系統分類体系APGⅢを採用し、全面的に改訂されることになりました。取り上げられた植物も6,800種と旧版よりも500種増加し、南西諸島、小笠原諸島の植物にも重点が置かれ、帰化植物、外来植物にも配慮した解説となっています。全5巻で、今年12月より2016年夏まで順次刊行される予定です。

国内の50名以上の分類学者による「最高の執筆陣、写真家による最新の日本の植物図鑑、ついに刊行!」と銘打っているように、日本の分類学者が総力を挙げて取り組み、私も末席を汚し、ツツジ属と近縁属を執筆しました。(倉重祐二)

## NEWS 4

### 日本植物園協会国公立園運営会議を開催

10月22日、23日、(公社)日本植物園協会の第33回第二分野(国・公立園)運営会議が当園の担当で開催されました。

会議では「植物園における子供の教育」をテーマとし、植物園運営の基軸のひとつである教育普及活動について大阪府の久保登士子さんを講師に迎え、「『植物園』は『学びの楽園』～育てよう!植物園教育」という題で海外の植物園の事例も含めた教育活動の紹介や植物園での教育の可能性についてご講演いただきました。また、千葉県立中央博物館、名古屋市立東山動植物園、神戸市立森林植物園の事例報告、「植物園の『つながり』探し」という題のワークショップや意見交換等を行い、今後の発展に繋がる内容の濃い会議となりました。

多くの植物園では、社会教育施設としての認識があり、子供向けの教育プログラムを実施していますが、さらに内容の充実や効果的な方法が求められています。今回行ったワークショップでは、教育に関連するさまざまなアイデアやキーワードが出され、植物を核にした教育の可能性や、植物と人の生活の多様な関わりを再認識しました。

今後、日本植物園協会が、教育プログラムの共有や開発、他団体との情報交換、研修会の開催等、植物園での教育の充実や来園者のサービスを向上するような事業に取り組むことを期待しています。

(倉重祐二)



久保講師による講演



ワークショップ



参加者全員による記念撮影

## NEWS 2

### にいがたGREENフェスタ2015 開催報告

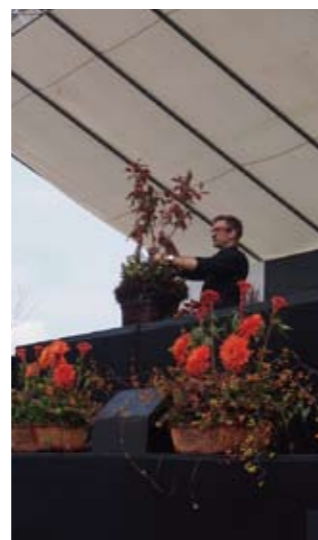
去る10月17日(土)、18日(日)の2日間、新潟県都市緑花センター設立25周年の記念イベントが開催されました。両日も天候に恵まれ、青空の下、各種体験教室や植物展示、ステージイベントなどに大勢のお客様からお越しいただきました。

メインイベントの1つ、18日午前には、フラワーアーティストのニコライ・バーグマンさんによる記念講演とデモンストレーションが行われました。ステージで実演しながら、材料の説明や使い方のポイントなどを流暢な日本語でお話いただきました。ステージ上に用意されたたくさんの花が次々と活かされて作品になっていく様子に会場のお客様も注目していました。

午後は、俳優で趣味の園芸メインナビゲーターの三上真史さんと園芸研究家で趣味の園芸講師の矢澤秀成さんによるガーデントークショーが開催されました。お二人の軽快なトークで会場は大いに盛り上がりました。チューリップ球根の寄せ植えを実演し、会場のお客様とのじゃんけん大会でプレゼントするなどのおまけもつきました。

イベント終了後、ニコライ・バーグマンさんの素晴らしい作品は、当園の観賞温室で展示して、大変好評をいただきました。

(村田亜希子)



ニコライ・バーグマンさんによる実演の様子



急きょガーデントークショーに加わった  
当園の倉重副園長



「畑やかとうふあーむ」から提供いただいた  
ビオラの花びらでフラワーシャワー!

## NEWS 5

### 新潟県花いっぱいコンクール 表彰式と作品展示

今年で48回を迎える新潟県花いっぱいコンクール(主催:あしたの新潟県を創る運動協会・共催:公益財団法人新潟県都市緑花センター)の表彰式が11月7日に当園で開催されました。

会場には今回応募された42団体の作品すべてを展示し、表彰式に出席された皆様にご覧いただきました。なかなか来園する機会がない遠方からの参加者も多いため、式典後に職員が温室をご案内しました。

最優秀賞を受賞した5団体と優秀賞を受賞した5団体の活動の様子をまとめた作品を当園で展示後、花テラス(長岡市)、食育・花育センター等で行う予定です。

新潟県立植物園では、学校や地域が花と緑でいっぱいになるよう、これからもコンクールを支援していきたいと考えています。

(村田亜希子)



神保会長から受賞者に表彰状が手渡される



中学・高校の部で最優秀賞を受賞した  
長岡私立山本中学校の代表による喜びのこぼれ



受賞作品の展示



受賞作品の展示

※コンクールについてのお問い合わせ、資料のご請求等は、午前10時～午後3時に「あしたの新潟県を創る運動協会(電話 025-280-5921)まで。ホームページ <http://www.ashitano-niigata.e-niigata.jp>

園内  
ウォッチング  
(温室)



アンズリウムの白い棒状の花と赤い苞



気根

●赤いハートが魅力的!アンズリウム

熱帯植物ドームの緑のジャングルの中で、ひととき目立つ赤いハート型の花があります。エキゾチックな雰囲気があるアンズリウムです。艶のあるハート型がうちわのようにも見えることから、和名でオオベニウチワと呼ばれます。

熱帯アメリカ原産の着生植物で、熱帯では木や岩にくっついて生きています。茎から気根という根を出して、他の植物に絡まって育ちます。ハート型の花のように見えるものは、葉が変化した苞(ほう)で、赤や白、ピンクなどの品種もあり、長い間、色あせないことから観葉植物として人気があります。

本当の花は、真ん中にある棒のようなもので、小さな花がたくさん集まったものです。花の咲き始めは、黄色で、だんだんと白、緑と色が変わり、実がなるとポコッと、内から種子が飛び出てきます。花の色の移り変わりや野性味を感じる気根や種など、赤い苞の他にも魅力がたくさんあるアンズリウム、ぜひ近くで見てくださいね。

(小日向美香)



実がなり始めて、ポコッとふくれた花



園内  
ウォッチング  
(園地)

●冬に咲く花、カンツバキ

日本人なら冬の花、と聞いて童謡「たき火」(作詞: 巽聖歌、作曲: 渡辺茂)に出てくるサザンカを思い浮かべる方は多いのではないのでしょうか。

花は白や白地に淡いピンクが入ったものですが、家の庭などで良く見かける赤いサザンカは園芸品種で、カンツバキ'獅子頭'(Camellia sasanqua 'Shishigashira')やより立性の'勘次郎'(C. sasanqua 'Kanjiro')などです。

単にカンツバキというと'獅子頭'のことを差し、矮性で冬に咲く特徴があります。カンツバキは自生では見つからず、来歴はよく解らないようですが、形態的な形質や遺伝的な解析から、サザンカと他のツバキ属植物との交雑種との考え方が一般的で、外見ではサザンカの品種(サザンカ群)と見分けることはできません。また、'獅子頭'と他のツバキの交配種をカンツバキ群と呼びます。

サザンカは10~12月に花を咲かせますが、カンツバキは11月から翌年3月頃まで咲かせ、新潟では雪をかぶった姿を良く見かけます。また、サザンカとヤブツバキの交配種に、ハルサザンカ(C. x vernalis)があり、11~4月までとカンツバキよりさらに長く開花します。ハルサザンカはサザンカやカンツバキと異なり葉の表側の主脈上に毛がないことが特徴です。

(久原泰雅)



植物園の生垣に使用されているカンツバキ'勘次郎'



カンツバキ'ジェニファー・スーザン'



サザンカ'風花錦'(かざはなにしき)

新潟の植物

特定外来生物アレチウリ

*Sicyos angulatus*

ウリ科の一年生ツル植物のアレチウリは、北米原産ですが、日本でも本州以南で帰化が確認されており、環境省の特定外来生物に指定されています。

特定外来生物は、「外来生物法」(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)で指定された生物をさし、外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されています。これらには、植物の他にもカミツキガメやオオクチバス(ブラックバス的一种)、ウシガエルなどが含まれ、取扱いの規制や違反時の罰則があります。

県内の植物で私が知るだけでも、外来アゾラ類(アカウキクサ属)、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ボタンウキクサを確認しており、注意が必要です。

アレチウリは、県内では1960年代より分布が確認されており(石沢 2006)、信濃川流域では既にすべてを除去できないほど繁茂していることが報告されています(藤塚・中



アレチウリの花と実



シラホシムグラ(葉の基部の茎上に白毛が密生する)

(引用文献) 石沢 進(2006)新潟県の帰化植物 侵入・繁茂時期(その1)アレチウリ.新潟県植物保護 第39号:pp.7-8.  
木村 彰(2009)越後の植物観察記(その7).新津植物資料室年報:99.30-32.  
藤塚治義・中野雅子(1999)信濃川河川敷のアレチウリ.新潟県植物保護 第22号:pp.4-7.

NHK新潟ラジオセンター  
「朝の随想」セレクション

クリスマスに咲かないクリスマスローズ

(2015年3月16日放送)

新潟県立植物園では、食と花の世界フォーラムとの共催で、今月21日から29日までクリスマスローズ展を開催します。今回は趣味の園芸の講師でおなじみの金子明人さんをお招きし、21日と22日に講演会も行います。申し込みが必要ですので、詳しくは県立植物園までお問い合わせください。

さて、クリスマスローズの人気も定着してきましたが、新潟県内でも生産が盛んで、全国を代表する産地として知られています。人気の秘密は、春早く、うつむき加減に咲く清楚な花と、宿根草で育てやすいことでしょうか。珍しい品種は鉢植えで栽培されますが、庭に植えて大きく育てると、立派になって、とても見栄えがします。今は無くなってしまいましたが、私の実家で30年くらい前に植えたクリスマスローズが満開になると、本当にきれいでした。

さて、皆さんの中にも、クリスマスローズを栽培している方は多いと思いますが、名前に反してクリスマスには咲きませんね。新潟は寒いからでしょうか。しかし、暖かい九州でもクリスマスには咲きません。

これは、実は名前に秘密があります。もともと、現在販売されているクリスマスローズは、昔はレンテンローズと呼ばれていました。レンテンとは、キリスト教の四旬節(しじゅんせつ)のことで、2月から3月上旬に行われますので、この時期に咲くということで名付けられました。

本来のクリスマスローズは、実は別の種類で、現在でも多少栽培されますが、花は白色だけで、花の茎は長く伸びずに地際で咲いている感じで



本当のクリスマスローズ(ニゲル種)

新潟のクリスマスローズの品種改良の基礎を築いた育種家、木口さんのクリスマスローズ(2003年撮影)

す。名前の通り、新潟でもクリスマス過ぎに開花します。

名前の感じがいいので、いつの間にか人気の高いレンテンローズがクリスマスローズと呼ばれるようになりました。

クリスマスローズには品種名がつけられていませんが、これには2つの理由があります。一つには、良いものができても、株分けでしかふやせないで、大量に生産するのが難しいことがあります。それともう一つが、チューリップやユリ、ツツジなどの植物が数百年の改良の歴史を持っているのに対して、クリスマスローズはここ数十年の歴史しかないために、まだまだ改良の途中にあり、次々に新しい品種が発表されていることがあげられます。

実際最近では、きれいな黄色や複色、八重咲き、花びらの裏側に色がつくもの、上向きに咲くものなど、さまざまな花が毎年発表されています。もともとの品種改良はイギリスではじまったのですが、日本のブームによって本家を追い越した感もあります。

まだまだこれから進化するクリスマスローズの花を毎年見るのは、本当に楽しみです。

(倉重祐二)



昨年の展示